

京都会談 12/4 ('67) 110以上のホテル (京都)

事務局: 豊田, 小川, 山田, 小沼,
小此木, 沢田, 安野

(17:00 開始)

I. スケジュール (4日, 5日)

4日 報告

- 1° 小沼: Venezia
- 2° 豊田: Romeby
- 3° 小川
- 4° 山田: Comment

5日 詳報

- 1° 日本に Pug. に関する件
- 2° Pug. の conti. committee
- 3° 科・京 (1968) の開催
- 4° 山田 提案
- 5° 科・京 の組織

庶務: 小沼

記録: 小此木, 沢田, 安野

4日

p.m. 5:00-6:00 7° の 3A
 p.m. 6:00-7:00 Dinner
 p.m. 7:00-
 1° (20' + 20')
 2°, 4° (30' + 20')
 3° (20' + 20')
 -10:00 Discussion 50'

5日

a.m. 10:00
 | 1°, 2°
 a.m. 12:00
 | (Lunch)
 p.m. 1:00
 |
 p.m. 3:00 3°
 | (Tea)
 p.m. 4:00
 | 4°
 p.m. 5:00
 | 5°
 p.m. 7:00

2°) 一般
核拡散 ABM: (Lopes paper); 4°) Vietnam 声明文
Garcia

(p.m. 7:00 開始)

II. 勉強会 (Report)

1° Venezia 報告 (小B) — 資料

ベトナム会場の特徴

○ ベトナムに始めて serious に採り上げた。

— 主テーマが 科学の国際協力と軍縮

— 北爆の最初は '84. Aug. 1="が 420" ほど
何もなかった。

○ 急速に ベトナムでの エスカレーション が進行した時期
であった。

ベトナムに関して 殆ど毎日 時を費して 激論があった。

○ 一般的声明は 極めて 困難な状態にあって、討論された
という事実だけが 出た。

○ Gas に関して — かなりの 線まで 押された。トリエステで
の BCW, W-G の 討論が あって 幸いした。

議論

○ 日本の 経緯委の 電報は 極めて 有効であった。USSR
もこの日本の行動を full に 利用した。

○ 大口批判の 最初の ケース であろう。しかし 小さい "ゆれ"
る ことを 感じた。

○ 日本の 科学者は ベトナム 問題 については 決して 分裂して
り なかった。

○ 非同盟諸国を 含め フランス、イギリスで "米批難か"
起った。

2° Ronneby 報告 (豊田) — 資料

ABM 内題を付したため W.G. 7 が追加された。

会議の特徴

- A. LA の出席者が多く active であった
- 核防条約をめぐって
 - 核防条約を Pug. で交渉させた狙いがあった、
そのため テクニカルな議論で進められようとした。
 - 核拡散についての山田提案があった。
- 山田提案について
 - 米口にとってかなり深刻であつたらしい
 - USSR も最初には判らなかつたらしいが、あとで
賛成した。
- ABM 内題をめぐって
 - ソ連にやめさせること、アメリカがやめることは
マクマフ 戦畧の破綻を意味する。
- アメリカ人の中に日本の主張と同じくする人が現われた
ことは注目になる。

W. Davidson 提案：5つの核保有国は 1st Use をなし

これについて、日本はこの提案が通るなら山田案を引込め
て良いと見た。W.G. 1で Davidson 提案に賛成
したのは USSR と日本だけであつた。アメリカは
割れ、イギリス、フランス、タビッドン 賛成、2名
が反対、残り白票であつた。

結局 声明にはこの内容は入れられず、513 核防交渉の
二コアンスはもり込まれた。

Garcia Report — (国際協力は我々が考えている程、生かされていない
ではない ということを確認するため、
その実体を明らかにした。)

- 内容：
1. 現在行なわれている aid は圧倒的に双方向が
bi-lateral である。
 2. Internal Co-oper. は aid といふが、結局
aid であり、貧乏 aid ばかりが儲かっている。
 3. LA に対する USA の「進歩のための同盟」を
例として bi-lateral の実情を痛烈に批判
した。それが USA の善意、悪意によるものでなく
米国の企業の自由を妨げ、むしろ排除すること
社会の本質に根ざったものであることを指摘
した。

提案：1. “発展” という問題の具体的検討

2. bi-lateral R_W ~~or~~ regional Co-oper.
の program の具体的な検討
3. 日米両国による援助を有効ならぬ ため の
日米的カンパーン。 が拡大する

我々のこの問題について懸念をうけたから、勉強のため
援助が出来なかった。今後考慮が必要あり

4^o Comment on Vietnam (山田)

A. Garcia Report についての comment

Garcia Report は後進国からは絶賛された。しかし基調報告で「支持されたにも拘らず」、W.G. 報告でも、声明でも入れられず、それは従前通りキレイ事になった。

B. Vietnam (W.G.-7)

- USA は W.G. 内では北爆無条件停止は呑み気であった。
- しかし総会声明の draft の中には入らなかった、それを含めようとする努力は W.G. に入ってない USA の人達の妨害によって流産に終わった。
総会声明そのものが。

(経統委で声明するのなら仕方がないが、会場一致でいざやられたら困るというのが本音?)

その結果 経統委声明_{のみ}となった。

- もともと W.G.-7 が出来たのはオランダの強い要請による。(Tolhoek-Smith)

Smith 提案: South-East Asia から米軍が撤退するところが本質的である。

しかし他からの意見として、世論を入れて、「北爆即時停止」を第一とせよが出る。

- 米国の道徳的批難 (USSR)

—— これは一致しなかった。

- 日連憲章, Geneva 協定違反

—— これは入らなかった。

○ アフリカ側の論理

— 赤の脅威とか口運の介入

朝鮮戦争の経験による口運不信感という
ことで潰れる。

W.G.では、北からの侵襲、アメリカの侵襲という点での
意見の相違はあったが

1°) 核爆の無条件即時停止

2°) 休戦と撤退(外国軍)を組織するための
交渉を即時始める

3°) 東南アジアに安定した平和を再び確立するため
の国際会営を促す

の点で一致した。

大統領声明では平和的解決でボヤカされた。

4°) 世界平和への脅威のみでなく現実にベトナム
民衆が長く苦しんでいる。

C. 近東問題

アラブ連合 - USSR) が肩をもち感情的プロもあり、
イスラエル - USA)
何とも年の拖はらなし。

D. アフリカ

ナイジェリアの叛乱: 多数の(200万)避難民、3万の死者

コートジボワール、南ア: 大口避難は W.G. 報告には

あるが声明にはハッキリは書いてない。
具体的な手段についてはあとでアフリカ
から言及された。

3° 小川報告

- 印象:
- D連ゴツゴツ的
 - Pug. は曲り角に未だ
— Wien 宣言当時の雰囲気なし
 - 軍縮問題, 南北問題で人の分極が現われている。

軍縮の new idea

世界大戦への

- 1°) local war (北+4. 近東) の危険性の指摘,
2°) B.C. 兵器

- Sweden は SIPRI を中心に 国家援助のもと系統的にやっている。これから総合報告あり。
- Geneva 協定は扱っていただけで精神は理解されても実施に難点がある。

3°) 兵器の進歩による問題

原潜論 (小川)

— Economical, 秘トク性から抑止戦術上有効と考えられているが, 核抑止の安定性を崩すものである。

生物, 化学者たちは抑止戦術上からの研究がなく薬の名前とか非人道的使用からのものしかなかったように思われる。

8

最後に.

1) 総会声明と全統委声明の区別として、総会声明は
「原則的向題」のみに限るという方針が全統委から
出た。その結果 総会声明最終草案には A+B+C
が含まれていなかった。

これが前記のごとく 総会声明が出せなかった理由
である。

2) 全統委の改組

President : Cockroft

Chairman : Powell

現在のまゝ

USA	3
USSR	3
UK	2
WE	2 (Italy, France)
EE	2 (Poland, Czechoslovakia)
Asia	1 (India)

直ちに増やすもの

A	1 (Tanzania)
LA	1 (Brazil)

財政状態により増やすもの

WE	2 (Sweden, Holland)
EE	1 (Yugo)
Asia	1 (Japan)
A	1 (?)

註. 中口の参加の意欲があれば直ちに増員.

Secretary General は 1年限り Rotblat.

3) 財政 - 分担金.

USA	\$ 2万
USSR	\$ 1.1万
UK	\$ 0.6
WE	\$ 0.6
EE	\$ 0.6
India	\$ 0.1

Ⅲ. 報告に関する討論

湯川： 日本でも東南アジア援助で儲けているが、一方米国の巨大資本の中に吸収されていっている。

山田： Australia の Conf. は米ソ2大国が出席しない会であったが、東南アジアから来た連中は今回の Africa, Latin America から来た連中に対して姿勢が弱かった。

湯川： Pug. Conf. には2大国が出席していることに意味があった。今は異なる。

山田： 核拡散防止ではなれ合った。全てがなれ合っていないが。

小川： 核拡散防止問題ではとくに大国主義がでた。Vietnam を見てもわかるように無責任だ。USSR は核防条約は方便だと説明した。

湯川： 抑止戦畧論はダメであるということが出れば有効である。

豊田： 核拡散は2大国だけでやったらどうか、抑止戦畧論は破綻しているといったが USA, USSR はまたわかっているらしい。

湯川： 抑止戦畧論は発散収斂である。small correction term であっても。

小川： France は going my way だ。

湯川： 西独では Göttingen 宣言を改めてやり話がある。非常に悪い状況なのではないか。日本もよいとはいえないが。

豊田： USSR は「Brazil などはどうでもよい」といって「Brazil が入る入らぬは世界平和に dangerous とは思わない」といっている。西独との加盟すればよいと考えているようだ。

山田： 日本が主張したような立場での核拡散防止についての批判は他の国にはなかったようである。

豊田： 「何故 科学の植民地にならねばならないか」という Lopes の発言はハッキリしていた。

湯川： 下田発言で 日本人も4つに分けて、majority は声なき声で

これは核兵器に反対しているといっているがこれは正しい発言である。

小川：今のそのような時期に、科学者の意見を point out しておく必要がある。

湯川：そう思う。

豊田： Pug. Conf. の年齢構成が問題になった。UK では平均 57才であったが、若い人を入れなければならぬ。Italy は summer school を開いた。若い科学者が参加できるようにするものに入れなければならぬ。Africa, Latin America では若い人しかいない。

湯川：物理でも現在では若い人があふんじている。BC兵器についてどう考えているか。JSC でも大いに変って来ているのではなか。

山田：生化学では物理ぐらいいるのではなか。若手の会もある。

坂田：農学も。

湯川：日米委員会から金が出ているか bilateral はしんどい問題である。bilateral が止まっても政府の統制が水にかわってくる。

坂田：Holland は国内的に組織が乏しいとしている。

豊田：Pug. Conf. における小国の役割を Holland が手とめている。America の influential men は結局国策に忠実な be influenced といえることになる。母体は people でなければならぬ。government の consultant や adviser であってはならぬ。

湯川：状況は日本でも同じで急速に変わっている。科学者の分化が起りつつある。America に近づいてくる。期待される人(体制側から)あるいはそれ以上になっているのではなか。

また journalism は自由の線(ほとんど政府の線)と本部が下部と上部とで分かれている。

山田 : Holland の Pug. Conf. 友の会の北爆の無条件停止に
ついでに投票は非常にはつりしてゐる。

小川 : Pug. Conf. は曲り角にまでゐる。科学者の集りの特徴が
なければならぬ。

湯川 : 情勢の変化は科学者の友の会の必要性を感じさせる。
JSC だけでは困る。JSC の位置づけが問題、変わって
ゐる。日本科学者会議との関係はどうなるだろう。

山田 : Pug. Conf. の最初は世界科連が縁の下の力持ちの
役割をした。

小川 : Pug. Conf. と日本科学者会議とは

沢田 : Pug. と京都会議の相違を意識しておくことが大切
であらう。

湯川 : 賛成

山田 : Holland をそうした。Pug. Conf. の Vietnam に対する取
扱いにジリジリしてゐるから投票をやった。

(朝永到着 p.m. 10:15)

山田 : Feld は物理学として抑止論は stable ではありえないこと
は認められているが control が効く範囲に抑止されると思つ
てゐる。

豊田 : 無限の悪循環ではなくて ABM にみられるように break
down なのだ。マクスター選陣は Vietnam 問題でなく
抑止論の break down だと思ふ。comfortable
superiority が抑止の balance of deterrence に
対して優勢になったことを意味する。

湯川 : 米ソ両国とも uncomfortable な状況を作ることは
おもしろい。

朝永 : Offence と defence の区別はな...

核拡散が難しいと2件問題に陥ったが米ソが合意した
としてもあとから追いつくものだからして共通の利害をもち
後からの国に対処することになる。例えば中国にかつてきた。

湯川：絶えず走らねばならぬ。

p.m. 10:50.